

南湖に放流したホンモロコ標識魚(平成 26 年度放流群)の追跡調査

太田 滋規

1. 目的

本項では「南湖のホンモロコにぎわい復活事業」で平成 26 年に放流されたホンモロコ標識魚(以下南湖放流魚)の追跡調査を報告する。

2. 方法

①南湖での稚魚分布状況調査：下笠地先で標識放流された 100 万尾のホンモロコ稚魚(平均全長 24mm)の分布を把握するため、6/3 から 7/24 までの毎週、放流場所を中心にビームトロール網による採集調査を行った。

②琵琶湖北湖での標識魚分布調査：北湖における南湖放流魚の分布状況および混獲状況を明らかにするため、北湖での漁獲魚(刺網、沖曳網)の標識調査を行った。

3. 結果

①南湖での稚魚分布状況調査：ホンモロコ稚魚は放流前(6/17)に 2 尾採捕され、それらは下笠の水田で放流された標識魚であった。また、稚魚放流直後(7/1, 8)に放流場所付近で 2 尾採捕され、それらは南湖放流魚であった(図 1)。昨年度より水草が繁茂しており、曳網が困難な地点が多かった。また、調査時に湖底から 5cm 上部の溶存酸素を計測したところ、水草が繁茂しているところでは、晴天の日中でも溶存酸素量が 1mg/L を下回るほどの低酸素の状態となっている地点があった(図 2)。

②琵琶湖北湖での標識魚分布調査：秋期(10/9～11/6)の刺網漁獲魚を 1,978 尾調査したところ、南湖放流魚が 1 尾再捕された。また、冬期(11/19～2/17)の沖曳網漁獲魚を 6,708 尾調査したところ、南湖放流魚が北湖で 6 尾再捕された(図 3)。昨年と比べて再捕尾数は減少しており、その一因として、今年の南湖は水草が過去にないほど繁茂し、底層が低酸素になったことが考えられた。

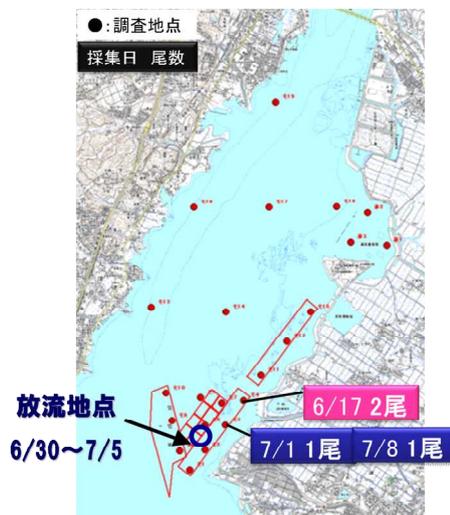


図 1. 南湖での稚魚分布調査の調査地点

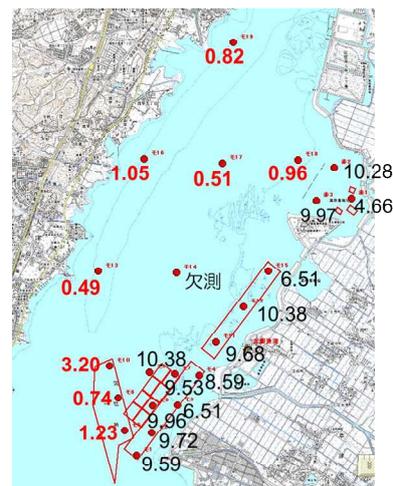


図 2. 7/23,24 の湖底から 5cm 上部の溶存酸素量 (mg/L)

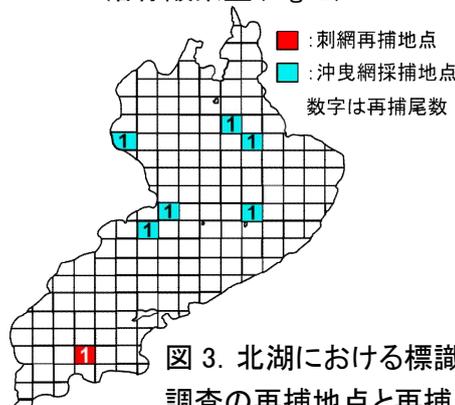


図 3. 北湖における標識魚分布調査の再捕地点と再捕尾数